

令和6年度 大阪府立堺聴覚支援学校 第3回 学校運営協議会

日 時 ; 令和7年2月18日(火) 9:45～11:45

場 所 ; 大阪府立堺聴覚支援学校 会議室

出席者 ; 校長 甲斐 俊夫

【協議会委員】 井坂 行男 (大阪教育大学教育学部 教授)

山下 真由美 (堺市立百舌鳥支援学校 校長)【意見書にて】

早川 良次 (シャープ特選工業株式会社 社長)【意見書にて】

廣瀬 宜礼 (大阪河崎リハビリテーション大学 講師)

田中 與志男 (堺ろう学校同窓会 会長)

中原 啓子 (本校PTA 会長)

【事務局】 教頭・事務長・首席・幼稚部主事・小学部主事・中学部主事

【傍聴者】 無し

1 開会

2 学校長より挨拶

3 校内見学

・ 中学部 → 小学部 → 幼稚部

4 協議

(1) 令和6年度学校教育自己診断について

① 回答率は小学部児童 68%、中学部生徒 81%、小中学部の保護者 69.5%、幼稚部 82%、教職員 88% (100%をめざしましたが、Google フォームの回答チェックの関係で一部不明)

② 課題点について

- ・ 小学部児童 「したい仕事について考える」将来を見通すような課題に取り組んでいければ。
- ・ 中学部生徒 「交流の機会」現在も機会はあるが実感が伴わない。今後、更に機会を増やす。
- ・ 小中保護者 「専門性をより高めてほしい」課題と受け止め、取り組んでいきたい。
- ・ 幼保護者 「進路指導」「ホームページ」ご意見を反映し、今後、改善をしていきたい。
- ・ 教職員 「分掌や学部間の連携」「教材教具の配置と活用」「専門性の向上」について

③ 委員からの主なご感想やご意見

- ・ 教職員の提出率をあげるために、職員会議後にアンケート実施するという方法もある。
- ・ 学校の様子を知るためホームページ閲覧数は多い。連絡情報・緊急情報や行事、学校通信等を発信しています。
- ・ 保護者、教職員や関係者が協議や情報交流を通じて理解が進み肯定的評価が醸成されると思料いたします。
- ・ 教員は課題事項を共有したうえで、目標を設定し、専門分野の向上が進むと考えます。

- ・地域との連携も継続し、交通安全、防災対策や教員の安全への取組みが基本と思料いたします。
- ・進路指導は、幼稚部から小学部の方も自分の子どもがどのように成長していくのか、見通しが持てるようなことが必要だと思います。また、子どもたちも自分の考えをもっと積極的に言えるような雰囲気を作ることも必要ではないかと思います。
- ・社会に出ると議論することもあると思うので、小さい時から話し合いの技術を身につけてほしいです。
- ・具体的に意見を書くようなアンケートも取り入れられれば良いと思います。

(2) 令和6年度 学校経営計画及び学校評価（最終報告）について（校長より説明）

【説明内容と委員からの主な意見・質問】

① 地域に開かれた安心・安全な学校づくりの推進

- ・ホームページ更新目標は年間100回以上で、現在113回。児童生徒による情報発信は年間8回目標の目標達成。校長ブログは現在118回。

② 確かな学力の育成

- ・幼稚部3名、居住地域の幼・保育園と交流を進めている。小中学部も目標以上に交流はしている。
 - 個人情報やセキュリティに留意しつつ、学校からの情報発信は、児童生徒、保護者と地域の関係者との理解促進を図るためには、重要視されると思う。

③ 支援教育の専門性の向上

- ・研究授業や公開授業は15回が目標でしたが、最終10回となりました。より研修効果の高いものをめざし来年度は回数ではなく違った目標で進めていこうと考えています。
 - 外部の現場を見学する機会は視野を広げる良い取組みと考えます。
 - 例えば、研究授業は2回実施し、1度目の反省の上に立って、2回目の研究授業をする。授業を観に行けない先生用にビデオに撮ってということなど、方法はいろいろ考えられる。

④ 聴覚障がい教育のセンター的機能の充実

- ・関係機関との連携で目標の8回は達成しました。学校教育自己診断では、教職員からは94%の評価が得られ、大阪南部地域のセンター校として、地域支援が果たしているという認識です。

⑤ 校務の効率化による働き方改革の推進

- ・分掌業務について見直しを行いました。文化祭業務担当を見直し文化祭実行員会を立ち上げました。教職員からは、行事についての見直し、休憩時間の問題、自分の意見がもっと言いやすい職場にするという3点が課題かと感じています。
 - 働き方に関するアンケートの取組みは良いと思った。欠員が出た場合が課題。
 - 研修については、互いの授業を見学し合う機会があるのはよい。全国教職員プラットフォームを利用するようになって、職員の研修の幅が広がり良かったと思っている。

(3) 令和7年度 学校経営計画及び学校評価（案）中期的目標について（校長より説明）

- ・中期的目標のところで、サブタイトルに「子どもの可能性を広げる」という文言を加えました。
- ・令和7年度は、世界的イベントが注目される年です。子どもたちの可能性を広げるために興味関心を引き出して、自尊感情や自己肯定感をしっかり高める取組みに繋げていきたい。

- ・ 外部人材の活用拡充ですが、様々なマンパワーの活用をして取り組んでいきたい。
- ・ 確かな学力の育成として、保護者からも期待されているところです。キャリア教育として系統的な進路支援に繋がるように取り組んでいきたい。
- ・ 支援教育の専門性の向上については、教職員が自ら、高い人権意識を持つことが必要であるので、研修の位置づけや、日常的な子どもとの関わりなど、チェックをしていきながら進めていきます。
- ・ 聴覚障がい教育のセンター的機能については、早期からの一貫した支援の充実を図りたい。
- ・ 働き方改革については、今年度、行事の検討プロジェクトチームを立ち上げて、全校行事の価値について考え、子どもたちにとって有用な全校行事を展開していきたいと考えています。前例踏襲にならないよう、廃止したりやり方を変えたりということにも踏み込んでいきたい。
- ・ ICT のシステムが新しくなった。ペーパーレス化や業務の効率化を進めて行きたい。

(4) 令和6年度を振り返ってのご意見・ご感想

- ・ 学習支援のクラウド活用や外部人材との交流は、適切な情報取得に繋がるものです。関係者が協力連携のうえ、進めていただくことが教育の育成支援になると思料します。
- ・ 聴覚障がいだけでなく、発達障がい等、重複障がいのある子どもも増えているのではないのでしょうか。教材作成なども含めて、その部分の専門性を高めていく研究も必要なのだと思います。
- ・ この1年間、この立場で学校を見て、安心して子どもを任すことのできる場だなと思いました。
- ・ タブレットや ICT が授業に定着したというのが実感です。
- ・ インターンシップや教育実習で学生がお世話になっております。学生一人ひとりに先生方の思いを伝えていただき、学生たちは多くの学びをして成長しています。
- ・ 授業見学をする中で、子どもたちが必要とする資質能力の育成に繋がっていると感じました。
- ・ 先生方が手話を使いながら口話もして社会に出て役立つように、努力してくださっていると感じました。

5 事務局より連絡

令和7年度学校運営委員会 委員について

令和7年度学校運営委員会 予定について

6 閉会の挨拶（校長より）